











磯武里墓の由来

此の墓は与論島初代島主花城真三郎始祖を葬った墓である。始祖は首里城で尚真王の次男として明応元年西暦一四九二年に生まれ幼名を真三郎と称す。永正九年西暦一五一二年二十一才で与論島に渡り統治するに当たり、島内を一巡され現在の琴平神社跡に立って島内を見渡し、築城の場所として最適であると判断されそこに築城して与論島を統治された人で、尚先祖よりの言い伝えによると葬儀の際は田畠より墓まで布を敷き其の上をお供して葬ったとの言い伝えあり。知力、能力、力量共に優れた人で与論島発展の基礎を築かれた最初の人であると言われている。

西暦一九九六年五月吉日





































































































































































































































































